

中期経営計画の進捗状況報告（平成 23 年度）

共立蒲原総合病院

目 次

I 中期経営計画の進捗状況

1 人材の確保	1
2 入院の状況	4
3 外来の状況	6
4 収支の状況	7
5 経営指標	10

(2) 看護師

(取組内容)

- ・ 奨学金制度の活用 平成 23 年度より新たに制度施行 奨学金貸与者 2 名
- ・ 給与制度 (処遇改善) ① 夜間看護手当の見直し
2,200 円→3,300 円 1,100 円増 (平成 23 年度から)
② 特別昇給 1 年 1 号ずつ 4 年間 (平成 24 年度から)
- ・ 院内保育所 再開 (平成 24 年 4 月) に向けての準備 定員 15 人

- 採用 31 名 (正規 13 名、臨時・パート 18 名)

○ 看護師の就退職の状況 (単位：人)

	平成 22 年度	平成 23 年度
就職 (4/2~4/1)	24	31
退職 (4/1~3/31)	30	17
増 減	△ 6	14

○ 看護師の状況 (単位：人)

	平成 23 年 4 月	平成 24 年 4 月	増 減
正規職員	148	153	5
臨時職員	11	12	1
パート職員	12	20	8
合 計	171	185	14

(3) 医療技術員

- 採用 理学療法士 2名 作業療法士 1名

○ 医療技術員の配置状況 (単位：人)

	平成 23 年 4 月			平成 24 年 4 月		
	病院	健診	計	病院	健診	計
薬剤師	10		10	9		9
臨床検査技師	13	4	17	13	4	17
放射線技師	11	6	17	10	7	17
理学療法士	10		10	12		12
(うち訪問理学療法士)	1		1	2		2
作業療法士	3		3	4		4
言語療法士	2		2	2		2
視能訓練士	1		1	0		0
栄養士	4	1	5	3	2	5
臨床工学技士	3		3	3		3
合計	57	11	68	56	13	69

【成果】

(1) 医師

大学医局からの派遣や業者からの紹介などにより、4名確保することができ、平成23年度から休診となった眼科を除いて、開設している外来の診療科を維持することができた。

(2) 看護師

17名の退職者があったものの、31名を採用することができ、14名増員することができた。

(3) 医療技術員

計画どおり、理学療法士2名を採用した。また、産休に伴い、作業療法士を1名採用した。

【今後の取り組み】

引き続き、様々な方法により、人材の確保に努めていく。

2 入院の状況（中期経営計画 第5章 1. 入院）

(1) 一般病床

[亜急性期] 平成23年10月より

	H23（計画）	H23（実績）	増減
病床数（床）	14	10	△4
病床利用率（％）	90.0	82.9	△7.1
診療単価（円）	20,500	28,940	8,440
収益（千円）	47,268	32,095	△15,173

※ 平成23年10月～24年1月まで6床、2月～3月は10床

[急性期]

	H23（計画）		H23（実績）		増減	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半
病床数（床）	143	129	143	133	0	4
病床利用率（％）	85.0	85.0	84.6	82.7	△0.4	△2.3
診療単価（円）	33,000	34,500	34,484	37,160	1,484	2,660
収益（千円）	1,426,315		1,538,194		111,879	

※ 平成23年10月～24年1月まで137床、2月～3月は133床

[一般病床 収益合計（亜急性期＋急性期）]

	H23（計画）	H23（実績）	増減
収益（千円）	1,473,583	1,570,289	96,706

(2) 療養病床

	H23（計画）	H23（実績）	増減
病床数（床）	60	60	0
病床利用率（％）	85.0	91.3	6.3
診療単価（円）	19,500	19,589	89
収益（千円）	363,987	392,734	28,747

【成果】

一般病床については、平成 23 年 10 月から、亜急性期の病床を 14 床、急性期の病床を 129 床と計画したが、亜急性期の対象となる患者の確保が見込まれなかったため、亜急性期 10 床、急性期 133 床での運用となった。亜急性期については、診療単価は計画を上回ったものの、病床数が計画より少なかったこと、利用率が計画を下回ったことにより、収益は計画を達成することができなかった。また、急性期については、病床利用率は計画に達しなかったが、診療単価の増により、収益は計画より 1 億円を超える増加となり、一般病床全体の収益は、計画額を上回ることとなった。

療養病床は、安定した稼働で、病床利用率、診療単価とも計画を上回り、収益は計画額を達成することができた。

【今後の取り組み】

亜急性期病床を増床し、一般病床の利用率について 85%超を目指していく。

また、療養病床、亜急性期病床への転床時のチェック体制を確立して、効率の良い運用を実施し、利用率のアップにつなげていく。

3 外来の状況（中期経営計画 第5章 2. 外来）

(1) 稼働診療科

婦人科、泌尿器科、皮膚科、内科、神経内科、耳鼻科、整形外科、小児科
外科、脳神経外科、放射線科、呼吸器科、透析（泌尿器）

(2) 患者数及び診療単価

	H23（計画）	H23（実績）	増 減
1日当たり患者数（人）	390	382	△8
外来診療日数（日）	244	244	0
外来単価（円）	17,750	17,412	△338
年間収益（千円）	1,689,090	1,656,628	△32,462

※ ワクチン接種等を除く

(3) 救急医療

	H22（実績）	H23（実績）	増 減
外来患者数（人）	3,717	4,192	475
入院患者数（人）	848	797	△51
合計（人）	4,565	4,989	424
1日平均（人）	13	14	1

【成果】

稼働診療科については、計画どおり開設している診療科を維持することができたが、患者数については、眼科休診の影響で、併診患者が減少したのではないかと考えられる。また、外来の診療単価は、計画額を達成することができず、年間収益も計画額を下回ることとなった。

【今後の取り組み】

地域医療支援室を強化して、紹介患者増加の取り組みを進めるとともに、睡眠時無呼吸症候群（SAS）診療や禁煙外来などの啓蒙活動を実施していく。また、入院前の外来での検査の実施を推進していく。

4 収支の状況（中期経営計画 第6章 1. 収支の目標）

(1) 収益的収入

（単位：千円）

款 項 目 節	平成 23 年度（計画）	平成 23 年度（実績）	増 減
病院事業収益	4,739,688	4,889,254	149,566
医業収益	3,756,274	3,866,999	110,725
入院収益	1,837,570	1,963,023	125,453
一般病棟	1,426,315	1,538,194	111,879
亜急性期病床	47,268	32,095	△15,173
療養病棟	363,987	392,734	28,747
外来収益	1,689,090	1,656,628	△32,462
その他医業収益	90,832	108,566	17,734
他会計負担金	138,782	138,782	0
医業外収益	426,490	441,432	14,942
他会計負担金	344,089	344,090	1
その他医業外収益等	87,872	97,342	9,470
附帯事業収益	556,924	562,823	5,899
健康診断センター収益	508,124	513,455	5,331
売店収益	48,800	49,368	568
看護学校収益	0	0	0
特別利益	0	18,000	18,000
その他特別利益	0	18,000	18,000

(2) 収益の支出

(単位：千円)

款 項 目 節	平成 23 年度 (計画)	平成 23 年度 (実績)	増 減
病院事業費用	4,946,848	4,909,409	△37,439
医業費用	4,262,333	4,205,085	△57,248
給与費	2,422,911	2,375,554	△47,357
給料	839,065	830,010	△9,055
手当	713,565	710,602	△2,963
法定福利費	304,949	297,780	△7,169
退職給付等負担金	147,921	148,326	405
賃金	416,074	387,559	△28,515
報酬	1,337	1,277	△60
材料費	1,095,118	1,058,224	△36,894
薬品費	920,342	907,675	△12,667
診療材料費	172,245	147,962	△24,283
医療消耗備品費	2,531	2,587	56
経費	466,891	500,473	42,858
減価償却費	254,374	250,828	△3,546
資産減耗費	11,300	11,191	△109
研究研修費	11,739	8,809	△2,930
医業外費用	166,860	174,403	7,543
支払利息	94,984	94,982	△2
繰延勘定償却	13,751	13,750	△1
その他医業外費用等	58,125	65,671	7,546
附帯事業費用	505,807	511,921	6,114
健康診断センター費	461,974	467,713	5,739
売店費	43,833	44,208	375
看護学校費	0	0	0
特別損失	0	18,000	18,000
その他特別損失	0	18,000	18,000

(3) 病院事業収支

(単位：千円)

	平成 23 年度 (計画)	平成 23 年度 (実績)	増 減
病院事業収益	4,739,688	4,889,254	149,566
病院事業費用	4,946,848	4,909,409	△37,439
収 支	△207,160	△20,155	187,005

【成果】

事業収益は、眼科の休診などにより、外来収益は計画額より減少したものの、急性期の入院単価の増や療養病床の患者数の増により、入院収益が増加したことなどにより、計画額より約1億5千万円増収となった。

一方、事業費用は、給与費や材料費の減により、計画額と比べ、3千7百万余の減となった。

この結果、実質単年度純損失は20,155千円となり、計画額より187,005千円改善することができた。

5 経営指標（中期経営計画 第6章 2. 経営指標）

指標	計算式	単位	自治体平均 平成 21 年度	平成 23 年度 (計画)	平成 23 年度 (実績)	増 減
医業利益率	$\frac{\text{医業利益}}{\text{医業収益}}$	(%)	△17.3	△13.5	△8.7	4.8
医業収益に対する医業利益の割合を表す指標。プラスは医業利益、マイナスは医業損失を示します。比率が高いほど良いとされています。						
経常利益率	$\frac{\text{経常利益}}{\text{医業収益}}$	(%)	△2.6	△5.2	△0.5	4.7
医業収益に対する経常利益の割合を表す指標。プラスは経常利益、マイナスは経常損失を示します。比率が高いほど良いとされています。						
薬品費比率	$\frac{\text{薬品費}}{\text{医業収益}}$	(%)	14.5	24.5	23.5	△1.0
医業収益に対する薬品費の割合を表す指標。比率が低いほど良いとされています。						
人件費比率	$\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}}$	(%)	64.9	64.5	61.4	△3.1
医業収益に対する給与費の割合を表す指標。比率が低いほど良いとされています。						
委託費比率	$\frac{\text{委託費}}{\text{医業収益}}$	(%)	9.8	7.5	6.7	△0.8
医業収益に対する委託費の割合を表す指標。比率が低いほど良いとされています。						
経費比率	$\frac{\text{経費}}{\text{医業収益}}$	(%)	7.9	5.0	6.2	1.2
医業収益に対する経費(委託費を除く)の割合を表す指標。比率が低いほど良いとされています。						

機能性

指標	計算式	単位	自治体平均 平成 21 年度	平成 23 年度 (計画)	平成 23 年度 (実績)	増 減
外 来 入院比	$\frac{\text{1日平均外来患者数}}{\text{1日平均入院患者数}}$	(倍)	1.59	2.20	2.34	0.14
1床当たり1日平均 外来患者数	$\frac{\text{外来患者延数}}{365 \times \text{稼働病床数}}$	(人)	1.39	1.28	1.40	0.12
患者1人1日当たり 入院収益	$\frac{\text{入院診療収益+室料差額等収益}}{\text{在院患者延数+退院患者数}}$	(円)	35,753	29,366	31,754	2,388
患者1人1日当たり 入院収益 (室料差額を除く)	$\frac{\text{入院診療収益}}{\text{在院患者延数+退院患者数}}$	(円)	35,262	28,369	29,660	1,291
患者1人1日当たり 外来収益	$\frac{\text{外来診療収益}}{\text{外来患者延数}}$	(円)	10,514	17,750	17,412	△338